

多様な性のあり方

～すべての男女が自分らしく生きることのできるまちをめざして～

Vol. 5

2021年3月発行

男女共同参画は、全ての人に、そして、仕事、家庭、地域生活などのあらゆる場面に関わっています。

吉川市男女共同参画啓発紙では、すべての男女が自分らしく生きることのできるまちをめざし、様々なテーマを取り上げて情報発信していきます。今回のテーマは「多様な性のあり方」です。



リモート討論会
当事者の方を交え「ウェブ
会議サービスによる討論会」
※YouTube配信をしています。



特集 | LGBTリモート討論会「多様な“性”と“生”～いま私たちにできること～」

吉川市では多様性に配慮したまちづくり、誰もの人権が尊重され暮らしやすいまちづくりを目指して、様々な取り組みをしています。その一環として当事者の方を交えたりモート討論会を行いました。「性的少数者」の多くは、誰にも言えずに悩んだり、また学校、職場、地域の中で差別やいじめを受けるなど、多くの場面で深刻な人権侵害を受けたりしています。いま、私たちに何ができるのか一緒に考えてみませんか。

基調講演

セクシュアリティは大きく分けて「カラダの性（戸籍の性）」「好きになる性（性的指向）」「ココロの性（性自認）」「表現する性（性表現）」と4つの要素があると言われています。

例えば、多くの方は心と身体の性が一致していますが、トランスジェンダーの方は「カラダの性」は女性でも「ココロの性」は男性とい

うように、一致していません。少数派である LGBTQ+ の方々は「普通じゃない」「おかしい」と言われることがあります。「普通」ってどんな事? と考えたときに、男らしさ、女らしさではなく、大切なのは「自分らしさ」ではないでしょうか。ありのままの自分でいられる、そんな環境が必要なのです。それぞれが自分らしさを大切に、尊重し合える、そして誰もが住み続けたいと思える魅力ある吉川市になってほしいと思います。

加藤 岳さん

レインボーさいたまの会代表として、講演活動やパートナーシップ認証制度の必要性を広げている。



LGBTって何?

レズビアン Lesbian: 女性の同性愛者、ゲイ Gay: 男性の同性愛者、バイセクシュアル Bisexual: 両性愛者、トランスジェンダー Transgender: 身体の性と自認する性で違和がある人、の英語の頭文字をとった言葉。性的少数者一般を表すために使用されることもある。※「LGBTQ+」のように LGBT だけに分類されない様々な立場の人たちを含めた表現もあります。

リモート討論会……

パネラー
中島 眞由美さん

NPO 法人よしかわ子育てネットワーク
代表。市内2か所の子育て支援センター
を運営している。



多様な“性”と“生” ～いま私たちにできること～



ファシリテーター
浅野 富美枝さん

吉川市在住。宮城学院女子大学生
活環境科学研究所所員。吉川市男
女共同参画審議会など各種委員を
務める。

浅野：電通の調査によれば、自分が性的少数者だと認識している人は、人口の約8.9%。人口7万人の吉川市では約6千人の当事者がいるという計算になります。見えてはいないけれど、私たちの身近に少なからずいらっしゃると思います。学校現場で子どもたちと接している前田校長先生はどのように感じましたか。

学校現場では

前田：セクシュアリティの問題について、相談を受けたことがない教員がほとんどだと思います。ただ、私自身も本当は今までに、自分の性のあり方に悩みを抱え、誰にも相談できなかった生徒に出会っていたのかもしれないですね。今後、相談を受けた場合、どのような対応をしたらいいのか不安に思う教員が多いと思います。

鈴木：悩んでいる生徒に出会ったことがない、確かに表向き

はそうですね。ですが、この問題はとても表に出にくい、相談しにくいという性質があります。もしそういった相談を受けた時には「その生徒が何に悩んでいるのか。何をしてほしいのか。」それを何より大事にさせていただきたいと思います。多くの場合、生徒自身もまだ問題自体をクリアに理解出来ていないかもしれませんし、何をしてほしいかも人それぞれです。先生方にはそこに耳を傾け、共に悩んでいただけたらと思います。社会や個人の価値観を押し付けられるのではなく、先生が共に悩み、自分の心に寄り添ってくれた。その事が生徒のその後の人生を大きく変えていくのではないかと思います。

前田：相談を受けたときは、問題の解決だけを急ぐのではなく、まずは共に学びあゆむ事が大切なのですね。誰もが安心して活動しやすい学校をつくること、それを実現するために、今回のお話を多くの教員にも広げていきたいです。

浅野：期待しています。学校だけでなく、家庭でも悩みを抱えている方も多くおられますね。地域で子育て支援をされている中島さんはどう感じましたか。

地域や家庭では

中島：私は子育て家庭を支援する立場ではありますが、同時に自分も子育てを経験してきました。母親は、我が子の悩みが自分の痛みを感じたり、自分の評価につながります。例えば、アレルギーの子どもに対し「こんな体に産んでしまってごめんね。」という気持ちが沸き上がってくるなど、自分の気持ちと葛藤することも多いのです。お母さんの想定内を増やしていくこと、そして、寄り添える場所をつくるのが、私たち支援者の役目だと思っています。

今回は親の目線として伺いますが、当事者の方は、親にしてほしかったこと、してほしくなかったことは何でしょうか。

鈴木：親として自分が何か間違っていたんだろうかと悩んでし



パネラー
前田 稔さん

令和2年4月に開校した吉川中学校の校長。みんなのトイレ、選べる制服など新しい取り組みを行っている。



パネラー
佐藤 梨帆さん

早稲田大学生。大学の留学制度を利用し、フィンランドに1年間の留学経験がある。

まう、自分も親でありとても共感します。ただ、セクシュアリティの問題になると、そう思う原因のひとつに「LGBTQ+当事者は不幸である。」という思い込みがある気がしています。私自身も当事者ですが、LGBTQ+当事者であるという事が不幸なことでは決してありません。しかし、もし社会や家庭に偏見や差別があったとしたらそれは不幸な事だと思います。

子どもの価値観やセクシュアリティをそのまま受け止め、大切にしていだけたらと思います。

浅野: 当事者だけが悩んでいるのではない。当事者と一緒に周囲も変わっていくことが必要なのですね。

中島: 「LGBT」を知らないことで、周りを傷つけていることもあると思います。必要な情報が必要な人に届き、多様性を受け入れられる親御さんが増えればいいと感じます。親が笑っていれば子どもも安心、明るい吉川市にしたいです。

浅野: 元気になりますね。日々、学ばれている大学生の佐藤さんはどう思われますか。

学生が目線で

佐藤: この討論会でレインボーカラーを意識して、皆さんアイテムを示されていますが、昔から髪形を変えるのが好きな私は、今回髪をレインボーに染めてきました。

高校生の時、私が横の部分を上げるツブブロックの髪形で登校したら、女性教員に「女の子なのになぜそんな髪形をするの?」と叱られたことがあります。その当時は何も反論できなかったけれど、とても違和感を覚えました。

鈴木: 学業をするのに支障があれば、注意して当然だと思いますが、その発言は「男女二元論」の価値観を押し付けていることにもなりますね。今の社会問題のわかりやすい形です。

佐藤: フィンランドに1年間留学していましたが、当時在籍していた大学のトイレは、男女別ではなくすべて個室。ジェンダー

フリーのアイデアが浸透している国でした。日本は遅れていると言われていますが、常識や理解が少しずつ変わっていかばいいなと感じています。

鈴木: 素晴らしい経験をしましたね。日本でもジェンダーフリーの意識が広がり、誰もが使いやすいトイレが増えてほしいです。

佐藤: 私は社会人になってからも、ずっと学び続け、そして学んだことを自分の周りや社会に還元したいと考えています。例えば、社会の中で批判的、差別的な発言をされた方がいた時に、自分の考えを伝えられる人になりたいと思います。

私たちにできることそしてこれから

鈴木: 今日のテーマ実は、LGBTQ+ 当事者だけが抱える問題ではないのかもしれないね。女だから、男だからではなく、あなたはあなたであり、私は私である。それをお互い尊重していける、それが理想の社会なのではないかと思っています。SDGsのゴールにも掲げている「ジェンダー平等」を実現していくためにも重要な視点です。

浅野: 性的少数者と言っても様々で、抱えている問題は一人ひとり違います。画一的にではなく、一人ひとりの悩みに寄り添って問題を考え、対応することが大切だということを感じました。また、トイレや制服など、性的少数者にも優しい形に整備されつつありますが、実際に使ってもらうためにはどうしたらいいのか、自然に受け入れられる制度づくりも必要ですね。そして、「知らない」ということが差別を生む原因になっているとしたら、学校や図書館などで正しく学べる環境を整えることも重要です。

性的少数者の方が暮らしやすい吉川は、誰にとっても暮らしやすい吉川になるのではないのでしょうか。また、この討論会を聞いてくださった方が、ご家族やお知り合いの方と話し合ってもらうきっかけになったらうれしいですね。

パネラー
鈴木 翔子さん

レインボーさいたまの会共同代表。
バイセクシュアル当事者であり、4人の母親でもある。



性的少数者のための
相談窓口

よりそいホットライン

24時間年中無休

☎ 0120-279-338

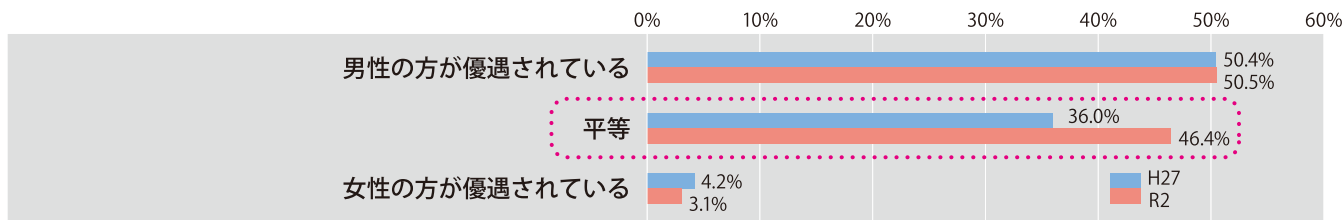
「男女共同参画市民意識調査」結果報告

吉川市では男女が平等な立場であらゆる分野へ参画する「男女共同参画社会」を築くため、第3次男女共同参画基本計画に基づき様々な事業を実施しています。この計画は令和3年で任期満了となりますが、新たな計画を策定するため、令和2年11月に「市民意識調査」を実施しました。この調査から見てきたものがあります。

※全体の結果については、HPで公表する予定です。

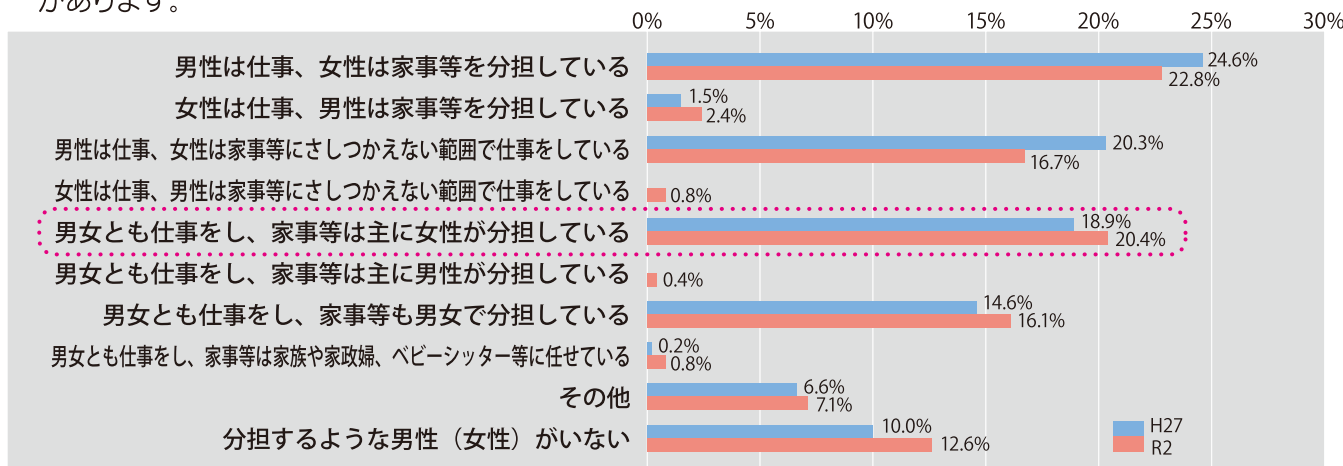
Q. 家庭、職場、風潮、教育現場など全体で男女平等感をどのように感じますか。

結果 平等であると感じる人が、5年前の調査に比べ10%以上増え、皆さんの意識は少しずつ変わってきています。



Q. あなたの家庭で役割分担はどのようになっていますか。*家事等とは家事・育児・介護を指します。

結果 「男女とも仕事をし、家事等も男女で分担している」が増えている一方、「男女とも仕事をし、家事等は主に女性が分担している」も増加し、女性は、仕事に加え家事負担も大きくなっています。このような結果から、引き続き性別による固定化した役割分担を見直し、男女が共に暮らしやすいまちづくりについて、一緒に考えていく必要があります。



吉川市 DV 相談窓口「吉川市配偶者暴力相談支援センター」に相談を

DV(ドメスティックバイオレンス)は、犯罪行為をも含む重大な人権侵害です。

吉川市では、「吉川市配偶者暴力相談支援センター」を開設し、DV被害者の支援にあたっています。一人で悩まずに、まずはお相談ください。

面接相談 / 電話相談
【秘密厳守・相談無料】

設置場所：吉川市役所 市民参加推進課内

受付時間：月～金曜日 9:00～17:00 (祝日・年末年始を除く)

月・水・金曜日は女性相談員を配置

専用電話：048-982-5968



DV(ドメスティックバイオレンス)：配偶者・恋人など親密な間柄で行われる暴力行為



発行 / 吉川市 | 2021年3月発行

お問合せ / 吉川市 市民参加推進課 男女共同参画・文化交流担当

〒342-8501 吉川市きよみ野1-1 電話:048-982-9685 FAX:048-981-5392

メール:shiminsanka2@city.yoshikawa.saitama.jp